

地域づくり実践者報告会
成果発表

江田島市地域おこし協力隊
守本怜矢



地域おこし協力隊：里海ナビゲーター

守本 怜矢

2級建築士,宅建士,MBA

1994.05.02 尾道市向島出身

大学時代：中山間地域における古民家と地域コミュニティの研究

2018-2019：江田島市沖美町における海上レストラン事業企画設計

2019-2022：建築事務所で店舗設計施工管理・CG制作を経験後,現職

2022- ：地域おこし協力隊(さとうみ科学館所属)

地元尾道のまちづくりによって、町が元気になる様子を見て育ち
自分も夢あふれる楽しいまちを作る人になりたいと志し建築の道へ
大好きな瀬戸内海をもっと世界に発信したいと日々奔走している。



A photograph of three children on a bamboo raft on a body of water. The children are wearing orange life jackets and holding long wooden poles. The raft is made of bamboo and has white plastic sheeting underneath. The background shows a forested hill under a clear sky.

いつもの海をいつかの海へ

里海

づくり

いつか海をいつもの海に

建築

づくり

里海 づくり



えたじま未来の海づくり展

海ごみ課題対策におけるこども達のアイデア提案



里海ツーリズム

里海の生物や文化を活かした体験コンテンツ試作



さとうみ学習コンセプト

教育委員会における新しい特色のある教育制度

11月開催

「未来の海ごみ回収装置わくわく大作戦」
アイデアコンテスト

未来の海 えたじま 展づくりま

海を知り、未来に繋げよう
みんなのアイデアがワタワクする海をつくる

11月1日～30日 9～20時
(ゆめタウン営業時間)

開催場所：ゆめタウン江田島店 2階

観覧無料

イベント
11月1日(水) 10:30～11:30
オープニングセレモニー
11月26日(日) 10:00～16:00
未来の海づくりDAY
表彰式＆ワークショップ

本事業は環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」の取組プロジェクトです



えたじま未来の海づくり展



What's Umihotaru

small glowing creatures that live by the sea

Guide : Reiya Morimoto

What kind of creature is it?



NAME
Umihotaru

- Arthropod
 - Crustacean
- Shrimp and crab friends



Nocturnality

They burrow into the sand during the day and start swimming at night.



Omnivore

They eat anything, including dead fish.



size 2-3mm

What does it shine for?



Communication : Courtship behavior

Danger signal : Contact friends

Intimidation : Warning signal to the enemy

How does it shine?



Luciferin
luminescent substance
+
Luciferase
enzyme



discharge

oxidation reaction
oxygen
underwater



Luminescence
Oxidized luciferase

Where do you live?

1. There is a beautiful sandy beach.
2. Dark place with no light.
3. A place where the flow is slow.
4. Places shallower than 4m deep.



You can collect it by throwing a device at night.

© 2023 Reiya Morimoto

Collection method

1. Put the bait in the bottle
2. Throw the bottle into the sea
3. Wait 10-30 minutes and pull up



Bait trap



Bait : Kamikama



里海モニターツアーリズム





海を知る。舟を知る。
新しい学びの形を江田島で。

江田島市の特色ある教育 さとうみ学習の推進

江田島市では、郷土への愛着・誇りを持った児童生徒「さとうみっ子」の育成を目指して、市内の全小中学校において、特色のある教育「さとうみ学習」を開発・実践していきます。そして、その成果を共有することで、より一層の教育活動の充実を目指します。

島っ子の特権を教育に。

江田島には、海に関わる営みが多く、それらは豊かな教育資源となる可能性を持っています。児童生徒がこの町で育ったからこそ受けられた学びがあることを誇りに思えるような、新しい教育の形を作り上げるために、さとうみ学習の実践を行います。

さとうみ 学習とは

さとうみ学習
定義
育てたい
人物像

海に関連するヒト・モノ・コトを
資源とした学習活動・体験活動
「さとうみっ子」
未来の里海・故郷を生み出せる人



児童生徒の発達段階をふまえた 学習ステップの設定

STEP 01 触れる

海が好きで、自分から関心を持って行動する様になるために、まずは直接触れることによる五感を使った体験知を増やす。簡単な遊びを中心とした活動を行う段階。

STEP 02 知る

海を有識者や文献から学ぶとともに、自分で情報を収集し、里海について広く知る。基礎となる知識をつけることで、自分の興味関心がどこにあるかを知る段階。

STEP 03 探る

海についての基礎知識がつくことで、掘り下げたいと思うテーマが見つかることを前提に、自分なりの視点で、主体的に研究活動を行う段階。

STEP 04 表現する

独自の視点で研究した内容を踏まえ、他者に魅力や実感を伝える段階。自分の特技や個性を活かし、既存の表現方法に囚われない表現活動を行う。

児童生徒の発達段階によって、さとうみ学習の段階は少しずつ高度になっていくよう、学習設計を行っていきます。その中でも、特に重要な点は、児童生徒が「海が好きである」状態になっていることを目指すことです。

この学習のステップでは、児童生徒が主体的に学び、自らの特技や個性を活かして表現することを最終目標としているため、学習活動に対する意欲を持続させることが必須であると考えます。そのためにも、学年問わず、海に「触れる」ことを通じ、好奇心を高めることを大切にしながら学習を展開していきましょう。

さとうみ学習のステップ



さとうみ学習コンセプト



秋月における古民家活用

里海暮らしを実現するための実験的古民家の活用



能美口ッジ跡地活用WS提案

里海地域資源を活かした有休資源の活用提案



里海不動産の新規事業提案

里海移住を実現するための空き家の流通・改修事業



建築 づくり



秋月における古民家活用



対象物件

徒歩10分

秋月港
前広場

牡蠣加工工場
レストラン併設

米軍弾薬庫

3D



国民宿舎能美ロジ跡地に
里海の豊かさを体感できる
場の活用提案を考えよう！

@能美市民センター

江田島市里海協議会

能美ロジ跡地活用WS提案





里海不動産事業の創業



いつかの海をいつもの海へ
里海不動産
SETOUCHI

私たちにについて / 地域情報 / お知らせ / 賃貸物件 / 売買物件 / 先輩移住者

☐ エリアから探す

- 立地 - 沿岸部 ☐ 橋がある島 ☐ 離島 ☐

- エリアの魅力要素 -

移住者が多い ☐ 海で遊べる ☐ 買い物がしやすい ☐ 災害危険性が低い ☐
子育てしやすい ☐ 海の眺めがいい ☐ 都市部に行きやすい ☐ 移住支援制度が充実 ☐

- 該当エリア -



① MITAKA / MINOU

三高・美能エリア

“島内有数の牡蠣養殖エリア”

三高・美能は島内でも有数の牡蠣加工場が多く存在するエリアです。そのため、牡蠣に付着した生き物を狙って魚が寄ってくる釣りスポットでもあります。牡蠣加工場に勤める外国人技能実習生も多く国際色豊かな地域です。フェリー一本で広島市内に出られることもメリットの一つでしょう。



② NAKAMACHI/TAKATA

中町・高田エリア

“島の中心で観光の窓口”





地域おこし協力隊 - 守本怜矢
二級建築士・宅地建物取引士
さとうみ科学館館員

1994.05.02 尾道市向島出身

大学時代：中山間地域における
古民家と地域コミュニティの研究
2018-2019：江田島市沖美町における
海上レストラン事業企画設計担当
2019-2022：建築事務所で店舗設計
施工管理・CG制作を経験後、現職
県立広島大学経営管理研究科在籍

地元尾道のまちづくりによって、
町が元気になる様子を見て育ち
自分も夢あふれる楽しいまちを
作る人になりたいと志し建築の道へ
大好きな瀬戸内海をもっと世界に
発信したいと日々奔走している。

里海イメージ



／ 瀬戸内海が人と海が近い理由を考える ／

前は、里海にまつわる事業をストーリーを持って循環できる仕組みがあれば、より深い観光体験ができるという考えを述べさせていただきました。そこで今回は、そんな独自体験を多く提供できる瀬戸内海の環境の優位性について、考察してみようと思います。

瀬戸内海は閉鎖性海域という海域で、周囲を陸地に囲まれ外海との接続が閉鎖的になっていることが特徴です。外海との海水の交換が行われにくいため、陸地の河川から流入するミネラルや汚染物質が蓄積しやすく、人の営み次第で良い漁場にも水質が悪化した海域にもなります。一方で、閉鎖性海域やその沿岸部は穏やかな自然環境に恵まれ、古くから豊かな漁場として利用され、産業や交通など空間的資源としても多方面にわたり利用・開発されてきました。

加えて瀬戸内海の干満差は約 4m 近くあり、時間によって姿を大きく変えます。その特徴を活かして、牡蠣養殖が盛んになったり、厳島神社のような海に接続する形の建築形態が可能となりました。加えて、潮の移動による潮流が発生することにより、大量の物資や人の運搬を可能としたため、海の変化を読み解くことは瀬戸内海で暮らすものにとっては非常に重要な要素でした。こうした精神的な海との近さは、日本海や太平洋といった外海に接続する地域とは大きく違っており、瀬戸内海は人が親しみを覚えることができるという意味で人と近く、自然と人が共存していく「里海」と呼ぶにふさわしい海と言えるでしょう。

沿岸地形の
違いによる
海と人との
近さの違い



閉鎖性里海
(瀬戸内海)



外海的里海
(太平洋・日本海)



大柿自然環境体験学習交流館 さとうみ科学館 Satoumi Science Museum

ふるさとの自然を知ることとは、ふるさとを語れる大人になる。

施設・ビジョン GUIDE BOOK



-来年度の目標-

里海ブランディング

里海

づくり

里海ツーリズム
定期提供化

建築

づくり

不動産事業
設計業の事業化